

J2140A アッテネータ



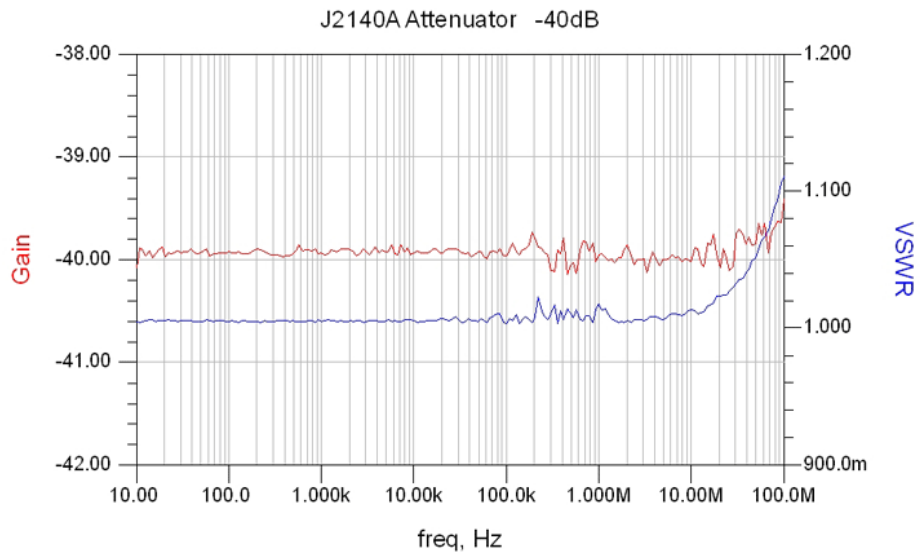
特徴

- ・40dB、20dB、10dB のアッテネーション
- ・より大きなアッテネーションはカスケード接続で対応
- ・ノイズフロアの改善または小信号測定の保証

製品概要

ネットワーク・アナライザと組み合わせて使用する場合、アッテネータには一般的に2つの用途があります。1つはオシレータのソース信号を減衰させることです。これは奇妙に思えるかもしれませんが、アナライザ測定で最も一般的なエラーの1つは、大きすぎるソース信号を使用することです。アナライザで信号出力振幅を設定できますが、最小設定が大きすぎて正確な小信号測定を行うことができません。正しい振幅は、ノイズフロアより大きな最小の振幅です。

アッテネータは、測定のダイナミックレンジを改善するのにも役立ちます。一例としてオペアンプのオープンループ・ゲインを測定する場合のように、低周波ループ・ゲインが非常に大きくなる場合があります（100dB 以上も珍しくありません）。出力信号を減衰させると、測定の有効範囲を広げられます。



仕様

仕様	
特性	定格
最大入力レベル	+20dBm
入力/出カインピーダンス	50Ω
3dB 周波数レンジ	DC-50MHz
最大VSWR	1.3
アッテネーション精度	0.2dB
絶対最大電圧	< 50VAC and 75VDC



注意; 機器の損傷または破損を避けるために、絶対最大定格を遵守し、常に超えないように注意してください。